

MOAI
レポート

寺本和央さん
寺本久美子さん
夫婦で一太郎Ver.5にチャレンジ

次にお話をうかがったのが寺本さんご夫婦。寺本さんはご夫婦とも障害者で、現在結婚して8年目である。最近パソコンを購入されたそうで日夜パソコンに向かって悪戦苦闘されているようだ。ご主人の障害は脳性マヒによる四肢・体幹・不随意運動、言語機能障害で、奥さんの障害は脳性マヒによる脳原性運動機能障害、頸椎症性頸髄症である。

——パソコン歴はどのくらいですか。
和央：パソコンは始めたばかりですが、会社でオフコンでの経理を10年ほどしています。

久美子：私はまだ始めたばかりです。
——パソコンを使い始めてどんなことを感じましたか。

和央：奥が深いですね。使い方次第で何でもできるということでしょうか。まだまだ使い方はなんほどもあると思います。またパソコンを使うことにより仕事の効率が上がりますね。私たちのような体の不自由なものにとって、かなりの賃金アップとなります。それからパソコン通信をすることによって、いろいろな情報や仲間を作ることができます。言語に障害がありますので、話をするることによってのコミュニケーションは難しいものがあります。パソコン通信などでは障害があるもの、無いものと同じ立場で話をするので、社会への視野も広がると思います。

久美子：これまではずっとワープロを使っていたのですが、友人がパソコンを使っているのを見て、私も始めました。まだまだ仕事にはとても無理ですが、いつかは、パソコンを使って仕事をしたいです。

——現在どのようなソフトをお使いですか。

和央：一太郎Ver.5とWindows版のExcelを現在勉強中です。あとはゲームが多いですね。

久美子：私は一太郎Ver.5と花子Ver.2を勉強中です。

——一太郎や花子を使うメリットは何かですか。

和央：ほかに使っている人が多いのでデータのやりとりが楽ですね。広範囲に普及しているので、あらゆる場所で適応ができますね。

久美子：いちばん有名なソフトなので、いろいろな人に教えてもらえますね。始めたばかりなのでわからないことが多いので。

——今感じているデメリットはありますか。

和央：機能が多すぎて覚えることが多いです。ショートカットキーを使えば便利なのですが、ほとんど片手で操作していますので使えません。メニューから操作を選ぶとかなりキータッチの数が増えて面倒くさいです。

久美子：やはり機能が多すぎて難しいですね。

——これからの要望として、何かありますか。

和央：一太郎は高機能で使いやすく重宝しているのですが、障害者に対しての使いやすさをもっと考えてほしいです。例えば、キー操作に関してとか、マニュアルをいちいち開けられないのもっと丁寧なオンラインヘルプなどがほしいです。また少々値段が高いような気がします。



寺本さんご夫婦、お二人とも向上心のかたまりといった感じの努力家で、将来はパソコンを使って仕事ができるよう

になりたいと燃えておられる。特にご主人が夢中になりすぎて深夜遅くまでパソコンに向かわれることもよくあるそう。パソコンは1台しかないのが私に寝不足になると、奥様がぼやいておられた。

アンケート結果から

障害をもつ人にとってパソコンは、自分の不自由なところを補う道具としてその機能をじゅうぶん発揮している。もしかすると、一般の人よりも道具としては使いこなしているかもしれない。例えば、手の不自由な人にとっては書く手段であり、耳の不自由な人にとっては社会参加への強力な助っ人となり、口の不自由な人にとっては思うがままに自己の意志を反映する手段として活躍している。そして、パソコンを使うことによって障害をもつ人達は、自分のできる範囲を拡げたり、就労が可能になったり、情報を取得したり、友人などの人脈を作ったりしているようだ。情報を取得したり、友人などを作る方法はパソコン通信である。障害をもつ人にとって通信はかなり重要な位置を占めている。「友人と電話で“おしゃべり”をしたいという夢が叶った」「コミュニケーションの手段として」「いろいろな情報を検索したり、いろいろな人の意見を聞けたりして視野が広がる」など今まで不可能だったこと、夢だったことが可能になったことを喜ぶ声が多い。しかし、電話代が馬鹿にならない、文字と文字とのやりとりなので自分の考えていなかったらえ方をされる場合がある、ボード上での喧嘩を見ると悲しくなる、など通信上でありがちな問題もそれぞれが経験されているようだ。

使っているアプリケーションは、ワープロがいちばん多く、その中でも一太郎

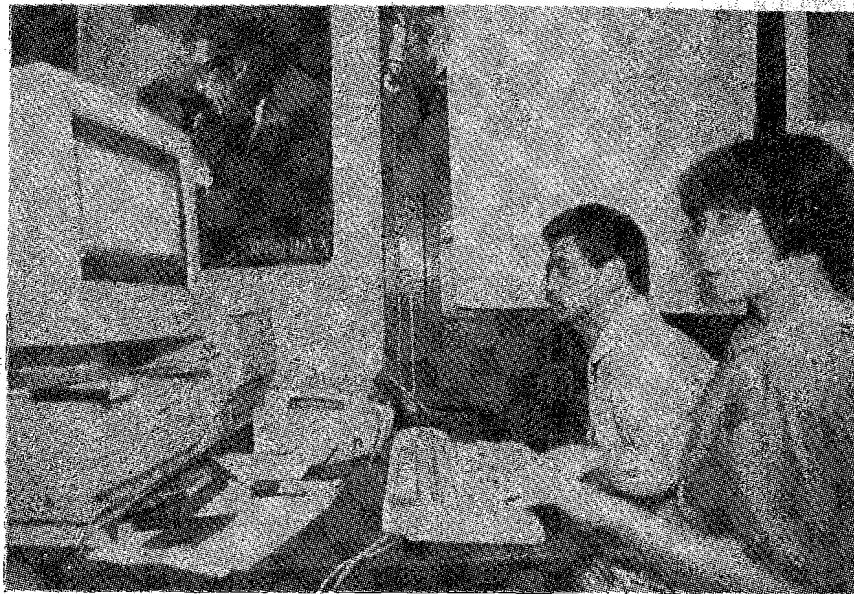
MOAI
レポート

Ver.3を使っている人が多いようだ。Ver.5を使っている人はほとんどいなかった。まだ出て間もないソフトなので、自分たちにそこまでの機能が必要なのか考えているところであるようだ。ATOK8には、その機能の素晴らしさにほとんどの人が興味をもっているようであった。

一太郎と聞けば、花子。花子のユーザーはすべてVer.2であった。表計算ではLotus1-2-3、データベースでは桐を使っている人が多いようだ。1-2-3のマクロの勉強をしている人、桐のマクロを使って自宅にあるビデオ一覧や親の経営する会社のシステムを作っている人など、かなり高度にアプリケーションを使いこなしている人も少なくない。Windowsにおいては、まだ使いこなしている人は少ないようだ。また、そこまでいらないといった意見も多かった。

そのソフトを使う理由は、まわりに使っている人が多い、売れ筋なので他人とのデータ互換がしやすい、広範囲に普及しているので技術を習得することによって就労に結びつく可能性がある、などという回答が返ってきた。ここで感じたのはそのソフトの独自の機能を使いたいからと答えた人はおらず、いちばん売れているから安心といった意見がほとんどであったことである。また、そのソフトを使ううえで感じるデメリットについては、メニューの階層の深さがわかりづらい、操作する(キータッチする)回数が多くて大変、オンラインヘルプが不十分、などの意見を聞くことができた。

今後の要望としては「花子を使う際に、マウスやトラックボールだけでなくテンキーでカーソルを動かせるようにしてほしい」「障害者の立場に立った操作性を実現してほしい」「障害者雇用に結びつくソフトを開発してほしい」など



どちらがパソコンを使うかということで喧嘩になるそうである。しかし、ふだんはとても仲のいい夫婦である。

操作性に関する要望が多かった。確かに一太郎や花子は健常者にとっては高機能で使いやすいソフトであると思うが、その高機能であるが故の操作の難しさ(マニュアルを見ることのできない人など)、操作するキータッチの多さなどは障害者にとっては苦痛であろうと思う。この部分はこれからの課題であろう。

今回のこの結果は一部の障害者の意見であり、全国的なアンケートをすれば違う結果が出る可能性もじゅうぶんある。この結果をすべてとみなすのは大変危険なことであるが、障害をもった人の社会参加への熱い思いをヒシヒシと感じることができた。しかし、可能性を秘めた障害者にとって、現在の社会はチャンスが与えられていないに等しい。自分を含め、社会がもう少し障害をもつ人の方を向いてもいいのではないだろうか。姿・形にとらわれず、能力を発揮できる社会になってほしいものである。 □

●取材協力

ブロップ・ステーション

〒530 大阪府大阪市北区同心1-5-27

(社福) 大阪ボランティア協会内

TEL&FAX 06-881-0041

コンピュータを媒体として障害をもつ人たちの就労促進を支援するグループ

メインストリーム協会

〒662 兵庫県西宮市与古道町2-29

TEL&FAX 0798-34-4955

重度障害者の自立支援組織と有料介助者(アテンダント)の紹介事業などを行っている。

月刊ジャストモアイ
1月号より転載

今、障害者雇用に取り組む企業

その3

清水建設

清水建設株式会社 大阪支店
人事課長 岡山 光彦 氏

建築技術部 越野 清三 氏
赤塚 光昭 氏

聞き手 プロップ・ステーション代表
竹中 ナミ

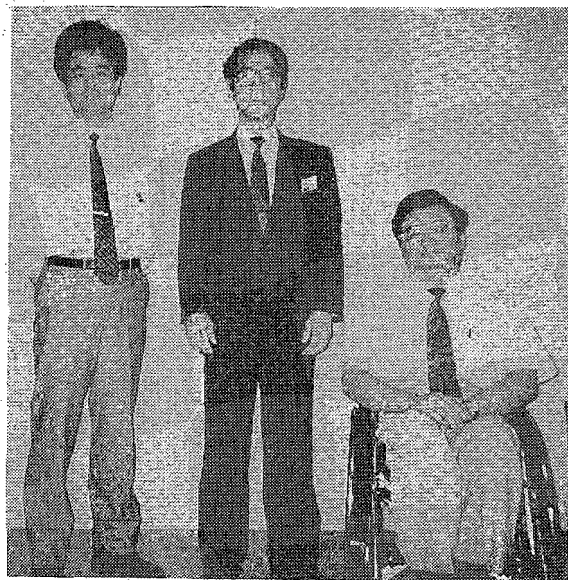
竹中 はじめまして。プロップ・ステーションの竹中と申します。今日は、清水建設大阪支店の建築技術部に勤務される越野さん（脊髄損傷・車いす使用）と赤塚さん（聴力障害）を交え、人事課長の岡山さんを中心に清水建設の障害者雇用への取り組みについて、お伺いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

岡山氏 こちらこそ、よろしくお願いいたします。

竹中 早速ですが、清水建設の障害者雇用に対する方針といえますか、基本的なお考えを教えてください。

岡山氏 清水では、雇用率1.5%といわれた時代から、障害者雇用については継続して取り組んでいたのですが、どうも実効が伴っていない状態でした。会社の規模が大きくなり、社員全体の数が増えていく速度が早く、率的には上がっていかないという状況が続いていました。

しかし、近年の企業の社会的貢献への意識が高まる中、現社長が「共生」をテーマに掲げた時から障害者雇用に対する考え方が大幅に進みました。それは「障害を持つこの人が、清水のニーズに合致するかどうか」より、企業責任として創出の場を造って行かねばならない、という姿勢です。全社的にはまだ雇用率が未達成ですので、えらそうな事は言えませんが、この姿勢の転換により急激に雇用が進んでいます。



＜左から赤塚さん、岡山課長、越野さん＞

事業所が全国各地にあります。大阪支店はなんと合格率をクリアしてと思います。でも、決して雇用率を達成すれば良いというのではなく、より良い職場を創り出して行く努力を続けたいと考えています。

竹中 岡山さんの人事課長としての担当分野は、大阪地域でしょうか。

岡山氏 兵庫県を除く、近畿2府3県を担当しています。

竹中 直接人事に当たられる方として、障害者雇用についてどんなご苦労がごありでしょう。

岡山氏 以前は、私自身の意識が薄かったこともあって、面接をした時「うちに、この人に合う職域があるか」を先ず考えていました。すると、何度面接をしても駄目なんですよ。

竹中 現状の職域を中心に考えると、建設業界というのは障害者雇用に向かない、という事でしょうか。

岡山氏 この業界は人員的には圧倒的に、技術者集団と現場集団で成り立っていますのでね。

現在も基本的にはそれ自体は変わっていませんが、内勤スタッフというか文系部門の職域が大きく広がってきましたので、受け入れる部署もそれにつれ広がってきたと思います。

竹中 で、職域の創出という姿勢に転換された、という事ですね。

岡山氏 その方向で取り組みを始めています。

竹中 でも採用にあたって、これだけは・・・という点は。

岡山氏 それはやはり月並みですが、意欲と人柄ですね。

竹中 協調性とか？

岡山氏 どこでも同じだと思いますが、社会人としてどうか、というのは基本だと思います。そこに建築や土木の知識がプラスされれば鬼に金棒なんですけど・・・。受け入れ側の門戸を広げなければ、と考えます。

竹中 業界全体も変化し始めているんでしょうか。

岡山氏 私は、この業界に限らず日本の企業全体が変化し始めたと感じています。企業ニーズが最優先の時代から、社会的存在としての企業という観点が広まってきたと思います。障害者雇用の広がりも、労働省の指導もありますが、全般的な広がりを見せつつあります。企業間での良い人材を採用したいという障害者雇用競争も始まっていますし・・・

障害者本人も、社会参加に対し逡巡することが少なくなってきたと感じます。

でも、アメリカなどに比べると、意識としてもまだまだなんでしょうね。

アメリカに行った知人が「障害を持つ人を街でよく見かけた。アメリカは障害者の

数が多いんだろうか」と言っていました。でも、率的には日本もアメリカも変わらない訳で、社会参加意識の差と、外出しにくい街の構造と両方の問題があると思います。

竹中 街の構造といいますと、大阪府をはじめ各地の自治体が福祉的な街づくりの条例を出しましたが、建設に当たられる側からみて、条例というのはどのようなものなのでしょう。

岡山氏 建設する側に「誰が使うのか」「若い人ばかりでなく、高齢者も、障害者も」という発想がなければ、誰もが使える街にはなっていないと思います。

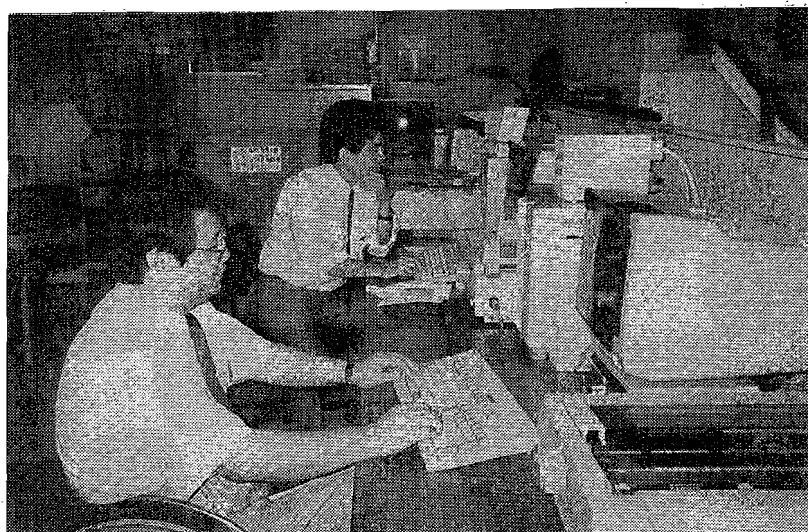
条例が出なくても進んでいかなくちゃならないんでしょうが、条例を出さねばならない背景がある訳ですね。でも、条例というのは、最低限を

定めたものだと思います。

竹中 すると、条例は建築にどのように生かされていくんでしょう。

岡山氏 社内打ち合せ、というか、プランを作る時点で条例のできた背景を認識する感覚が必要だと思います。プランを立てる人間自身が変わらなくては。

でも、建築物には必ず発注者がいる訳ですから、発注者の意向にその視点が欠けている場合は、プランの中でこちらから提案していかなければならないと思います。コストが若干かかって、きちんと提案したいと思います。条例を守る事はもちろんですが、プランナーの感覚を磨くことも重要だと思います。



くお仕事中の越野さん（左）と赤塚さん

竹中 社内に、そのようなセクションをお持ちなのでしょうか。

岡山氏 今述べたような事は、人材開発部の中で全社教育の一環で行っています。

竹中 お話が障害者雇用からだいぶ離れてしまって・・・本日のテーマに戻りたいと思います。

越野さんは清水建設に勤務され現場でお仕事をなさってる時、事故に遭われたそうですが・・・
越野氏 昭和48年に入社したんですが、京都の現場で働いてる時に高所から転落して脊髄を損傷しました。

竹中 障害が残った時、それを理由に退職を余儀なくされるといった話をよく聞きますが。

越野氏 僕の場合は退職を迫られるというような事はなかったです。「大阪支店で受け止めるよ」と言ってもらえて、良かったです。

竹中 障害を負われる前と、お仕事内容は全く変わったのでしょうか。

越野氏 事故に遭う前は現場でしたが、内勤に変わりました。

ちょうど全社的にパソコンが導入されて、それを広める時機だったのも幸いしたと思います。その時からパソコンの勉強を始めて、今に至っています。

岡山氏 事故に遭われた方が車いすで復帰されるのは、越野さんが初めてのケースです。

建築の知識を持っておられたので、内勤への異動も（社内的に）スムーズだったのじゃないかと思っています。

越野氏 僕自身も、普通の異動と変わらない感覚で復帰できました。

竹中 事故の後、どれぐらいブランクがあったのですか？

越野氏 昭和55年8月に事故に遭い、57年の3月に復帰しましたので、3年のブランクという事になりますね。

竹中 ご結婚は・・・

越野氏 事故の前年でした。家庭を持ったばかりだったので、仕事に復帰できたのは本当に良かったと思います。

僕の車いすでの復帰が、他の障害者の就労に役立てば嬉しいですけど、車いすは今のところ僕だけなので、頑張らな・・・とプレッシャーもありますね(^^)

竹中 越野さんから、これから企業就職を目指す障害者の皆さんに言いたい事などがあれば、ぜひ。

越野氏 もっともっと、外へ出て欲しいですね。色々と障害者に対応する施設・設備もでき始めているんですが、使わなければ意味がない。アクティブに社会参加して欲しいと思います。それと、まだまだ自己アピールの下手な人が多いように感じます。

竹中 社会経験というか、様々な体験をして自分を磨きアピールする、という事ですね。ありがとうございます。

では、続いて赤塚さんにお話をお伺いしたいと思います。

今日のために、わざわざ手話サークルから手話通訳の徳山さんが同席して下さいました。今日はどうもありがとうございます。では、徳山さんの通訳で、お話を進めさせて戴きます。

赤塚さんは、入社時点で障害をお持ちだったのですね。

赤塚氏 僕は3才の時に、高熱のため聴覚障害になりました。

学校は高等部まで聾学校で、大学は近畿大学に進みました。

生まれは鹿児島ですが、今は大阪人です。結婚して子供がいます。

竹中 近大では、建築の勉強をされたのですか？

赤塚氏 そうです。

竹中 清水建設に就職されたのは、いつでしょう。

赤塚氏 昭和58年、28才のとき契約社員として入社しました。5年間契約社員で頑張り、今は正社員です。

竹中 どのようなお仕事をなさってるのですか。

赤塚氏 施工管理です。越野さんと部は一緒ですが、仕事は全然違います。

竹中 社員の皆さんとのコミュニケーションは、どんな具合ですか？

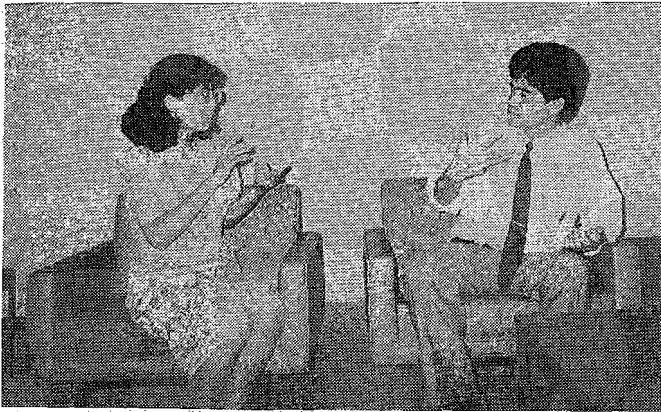
赤塚氏 主に筆談でやってます。本社には聴覚障害の社員がたくさんいるんですけど、大阪支店は僕だけ。でも、入社してすぐに社内の手話の講習会を開いてくれました。

竹中 仕事が終わって、飲みにゆくようなお付き合いも？

赤塚氏 もちろん(^^) でもその時は身振り手振りで盛り上りますよ。

越野氏 僕は車なので、仕事帰りの一杯は殆どありません。仕事上も部は一緒なのに赤塚さんの「からみ」は、あんまりないですね。仲悪いわけやないけど(^^)

竹中 お二人とも、お仕事はかなりお忙しいんでしょうか。



＜手話通訳の徳山さん（左）と赤塚さん＞

赤塚氏 以前は残業が多かったけど、最近は落ち着いてますね。

岡山氏 時期や担当してる内容によって、かなり忙しさが違います。なにしろ仕事が仕事なので、着工直後なんか大変な忙しさですよ。でもバブルの時期に比べると全体が落ち着きました。

竹中 最後にもう一度、岡山課長のお話を伺いたいと思いますが・・・

清水建設では、障害者多数雇用のための事業所を持つといったご計画はお持ちですか？

岡山氏 私は個人的に、障害者を集めて・・・という事に疑問を抱いています。

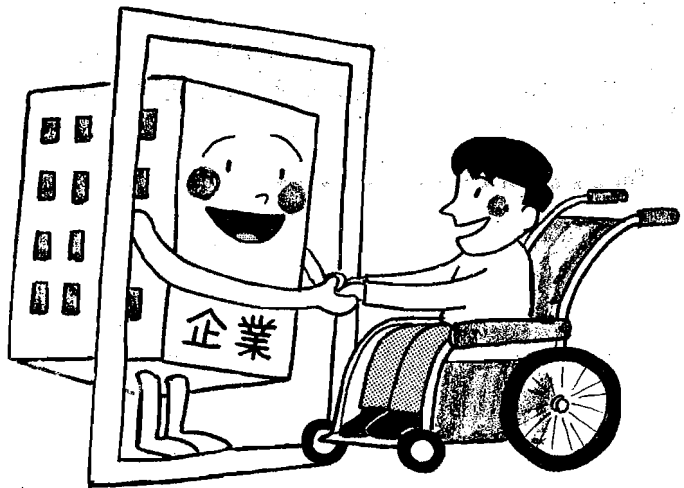
会社全体で受け入れ、社内をノーマライズして行くという方向が必要ではないかと考えているんです。清水としても、特例子会社的なものの設置は計画していません。ごく自然に障害を持つ人に接していくようにするには、その方が良いんじゃないかと思うんです。きれい事の理想論かもしれませんが、私の目標です。

世の中全体も、そうなって欲しいと思っています。建築する側として、新しい街の理念はそれだと考えています。

竹中 今日は長時間にわたり、本当にありがとうございました。

清水建設が、誰もが使える素敵な街づくりにますます貢献されますよう、ご発展をお祈りいたします。

岡山課長のおっしゃる「職域の創出」は、大企業なればこそ可能な選択であろうと思います。公共の建物の建設にあたられる大手建設会社で障害者雇用が推進される事は、社会をノーマライズする大きな力になるでしょう。ぜひこの業界のインシアティブをとって戴きたい・・・そんな事を願いながら、清水建設大阪支店を後にしました。



清水建設株式会社

創 業 1804年

資本金 74,341,321,065円（平成5年3月31日）

年 商 2,168,285,000,000円（平成5年3月期）

従業員数 16,577人（平成5年4月1日現在）

工学・理学その他博士 96人

技術士 339人

一級建築士 2,873人

一級土木施工管理技士 1,844人

現在、建築、土木技術者（CAD、構造計算等コンピュータ業務）に携わる障害社員を募集中。
お問い合わせは職安または、清水建設大阪支店人事課（06-263-2720）まで。

講座の開始にあたって

この「講座」では「少し譜面を読むことが出来る」ことを前提に話を進めていきます。すでにある程度の音楽的知識がないと、作曲、編曲といった作業は難しくなり、更に理解を深める事はできません。これはコンピュータとOSの関係みたいなものと言うと解りやすいかも知れません。もっとも、そんなに専門になる必要はなく、4分音符とか、付点8分音符というものがどういうもので、調記号とかの色々な約束ごとを知っている程度で良いのではないかと思います。

コンピュータで音楽を作ったり、演奏させる——10年前にはとても考えられないことでした（少なくとも私にとっては……）。ところが、今は、音楽ソフトを使って、音楽の知識のある人ならすぐに簡単に音楽を楽しむ事ができるようになりました。

実際に、大きなNETでは専門のフォーラムがある位です。ただ残念なことには、音楽の基本的なノウハウをきちんと知っている人が少なく、我流でやっている人が殆ど、というのが実情です。それでも自分の音楽を作りたい、しかしどうしたらいいのか解らない、という人のために、少しでも役に立てばいいのでは、なんておこがましいことを思い付きました。

更に、この講座を幅広く理解してもらうために、出来るだけ楽譜を使い、解りやすく説明をし、基本の部分を詳しくやっていこうと予定しています。もちろん、音楽ソフト、周辺機器などのことも織混ぜていきますので、これからやろうと思っている人は是非ともしっかり内容を把握していただければ、今後にも多少でも役に立つのではないのでしょうか。

クマさんの

コンピュータ作曲入門

自分の音楽を作ってみよう VOL.1

音楽に興味はあるのだが、自分で作るなんてとても、あるいは自分で作って見たけど出来上がりももうひとつ、楽器も弾けないのにそれでも自分の音楽を作りたい…そう思っている人は多数おられると思います。

或は、自分は「音痴」だと思って、音楽から無理に離れている人もかなりあるようです。しかし、本当の「音痴」は、まずいないと思って下さい。こういった「音痴」と呼ばれている人は、ただ単に、耳から入った音楽の音に対する反応がチョットずれているだけなのです。耳の全く聞こえない、世界的に有名なマリimba（木琴の大型のもの）奏者が活躍している事を考えれば、聴覚はさほど問題にならないのではないのでしょうか。あの、ベートーベンですら、耳が聞こえなくなっただけでも交響曲をいくつか作っているのです。

この講座では、ただ単に楽しみながら、自分の音楽を作る方法を、それもできるだけ簡単に効果的な方法を知ってもらえればと願っています。

世の中にはいろいろな音楽があふれています。クラシック、ジャズ、ポピュラー、歌謡曲、民謡ETC…それぞれ特色はありますが、一番の共通点はどの音楽も感情に直接響いてくる、ということです。リクツがどうであっても、心に直接その感動をつたえてくれるのです。その役目の担い手↑

は、まずメロディーをあげることができます。その脇役になるのが、和音とリズムです。実際に「歌」を聴いているときには、先ずメロディーを聴き、それからリズムに乗っていくのです。もちろん、歌詞を覚えようとするのが普通です。

では和音の役割は一体何をしているのでしょうか。

アマチュア音楽家の間では、プロが使っている和音（コードと呼びます）をそのままコピーして、ここにあてはまるから使おう、といったふうに使っていることが多いのです。なぜそのコードがそこでいいのか、というリクツは抜きにして、気分がいいからそこで使う、というのが主流です。

このことは、コードの基本的な概念を知らず知らずのうちに使っていることになっているのです。つまり、コードは音楽の雰囲気、盛り上げたり、より効果的にするためにある、といっても過言ではありません。

ここまでの復習をしましょう。音楽はどんなものから出来上がっているのでしょうか……

歌詞	歌のメッセージ
メロディー	歌詞を引き立たせる、メッセージのムード
リズム	雰囲気を強調させる
コード（和音）	雰囲気により含みをもたせる、流れを作る

というふうに分類出来るのではないのでしょうか。

もっともこれはいい加減な分類のしかたですが、取り敢えずそれぞれの役割を知るには十分だろうと考えます。

こういった「音楽の情報」をまとめるのが、ここで扱うミュージックソフトなのです。現在、市販されているソフトはかなりあり、どれがどうなのか、ちょっと見たところでは、解りにくい状況です。

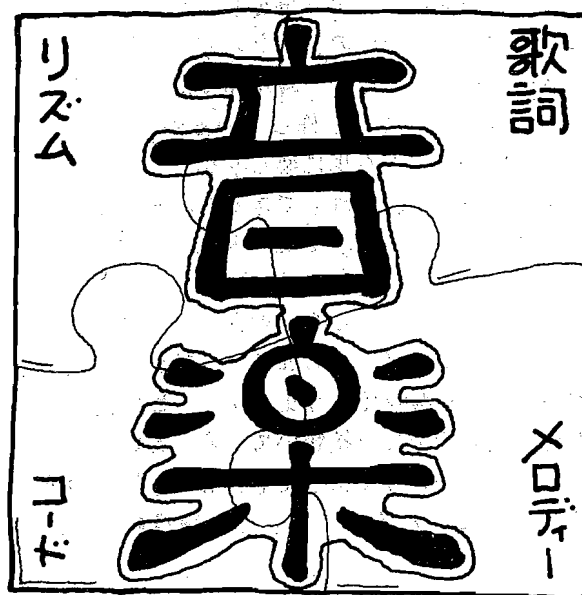
主なものを、表にまとめてみました。（98、EPSON系）

名称	特徴	価格	発売元
1 SOUND MASTER	ステレオ・デジタル・サントの録音 再生、編集	98,000	カノーブス(株)
2 バラード2	音源別途購入	32,000	ダイナウェア
3 ミュー	〃	48,000	コーラル(株)
4 バンドくん	〃	18,000	光栄
5 レコンポーザ98	〃	58,000	カモンミュージック
6 ミュージ郎300	DM-300	88,000	ローランド
7 ミュージ郎500	DM-500	145,000	ローランド

この他、多数ありますが、現在もっともポピュラーに使われているのが、5のレコンポーザーと7のミュージ郎とすることができます。たまに2のバラード2が使われているようですが、何ととっても音源との相性を考えると、レコンポーザー、ミュージ郎500のふたつが双璧と言えます。音楽ファイルのコンバートのしやすさや音源を選ばない点から、レコンポーザ、設定の楽なものとしては、音源付きのミュージ郎500がお奨めです。Mac用にもいくつかソフトがありますが、Macでは別売りの音源ボードが必要になるようです。

いずれにしても、GS音源(MIDI音源の統一規格)のものが、今後のコンピューター音楽にとって、必須のものではないかと考えますが、将来にはもっと便利なものが出てくる可能性はあります。

(MIDI音源に関しては、楽器メーカーがそれぞれ特徴あるものを作っています。大阪の日本橋筋でかなり格安に購入できそうです)

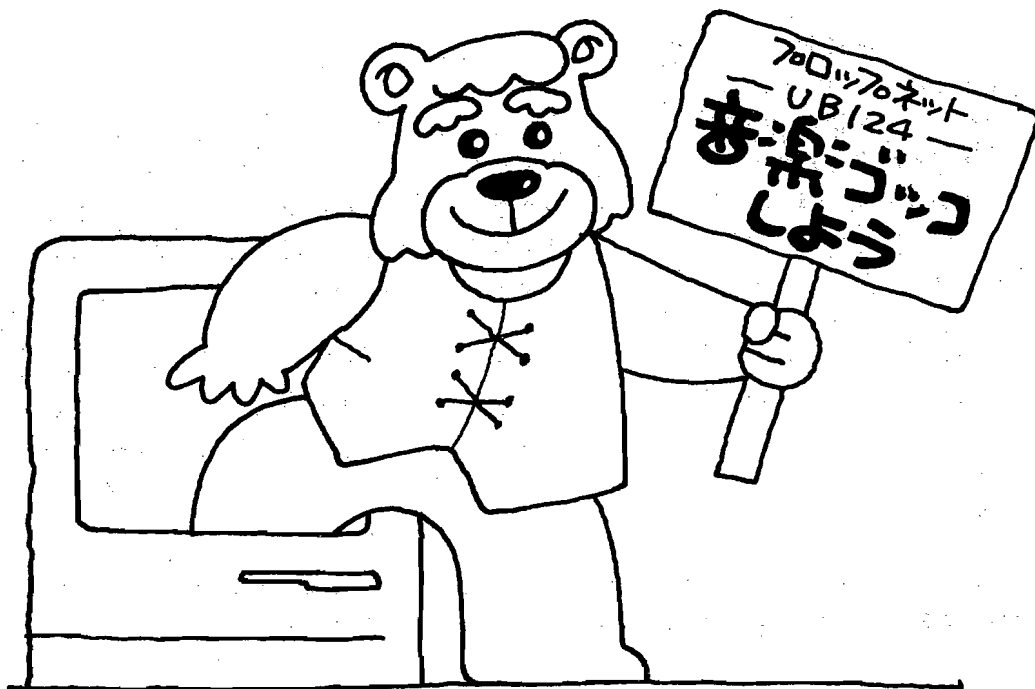


*MIDIの説明

現在、電子楽器には殆どと言っていいくらいにMIDI端子がついています。これは、電子楽器(シンセサイザー、リズムマシン、コンピューターなど)を繋ぎ、より広いサウンド作りを目指していることと、演奏者にとって便利に、しかも楽に使えるようにしようという目的で、この数年の間で、音楽業界に定着しました。ところが、このMIDIにひとつだけ問題がありました。つまり、使うデータチャ

ンネルが、メーカー間で共通性がなかったのです。そこで、ローランド、ヤマハなどの大手メーカーが中心になって、規格を統一しようということになり、そこで開発されたのが、GS規格、GM規格などです。

現在の音楽ソフトはこのGM/GS規格に合わせて、それぞれの楽器の間でのデータの互換性を持たせるようにしてあります。



この順番はあまり重大に考えないで下さい。作り方は人によって、好みがあり、歌詞を作ってからメロディーを考える人、コード進行からメロディーを作り、それから歌詞をあてはめる人、メロディーがいきなり出てくる人、といったように、それぞれ自分に合った方法

自分で音楽は作ったけど、楽器を自由に演奏出来ない。どんなふうに聞こえるのか、自分の耳で確かめたい。コンピューターミュージックの世界はそんな悩みを解消してくれます。音符を自由自在に扱い、更に機械が勝手に演奏してくれるのですから、少なくとも楽器の演奏技術はここでは問題になることはありません。

ここでは、コンピューターは音楽と「音楽を知らない人」…正式の音楽教育を受けていない人のことです…とのなかだちをしてくれるのです。また、音楽の仕組みを理解するのにとても便利な「道具」なのです。ですから、出来れば実際に音楽ソフトを使ってみることが、本当に近道になるのです。

現在、プロップ・ネットの中に、UB124<音楽ゴッコしよう>というユーザーボードがあり、音楽のジャンルは関係なく、みんなで音楽の楽しさをもっと知っていこうとしています。また、時々ですが、私の作ったコンピューターミュージックをライブラリーにUPしています。今後、更に充実させていければ、と考えています。

他人の作った音楽もいいのですが、自分で作って自分で楽しむ、こんな音楽の楽しみも知ってもらえれば嬉しいです。

さて、これから何回かに分けて、自分の音楽を作っていこう、という訳ですが、まず何から始めましょうか。

でやっているのですから、この際、順番は気にしないで下さい。

ここは便宜上、メロディーのところから始めます。

メロディーが出てきた時、あなたはどうしますか。楽譜にすることは苦手で、ただメロディーがヒョコヒョコと出てくるのです。一番手っ取り早い方法はラジカセなどで、自分の歌っているメロディーをテープに録音してしまう事です。そうすると、いつでも「あの時のメロディーはどんなんやろ」と思った時に聞き返すことができるのです。こういったテープライブラリを作っておくと、あとで聴いたときに、「あ、これ、おもしろいネタやなあ」てなことになって、比較的簡単にメロディーをひとつ作ってしまえます。

とにかく、自分でカッコイイと思ったものは、どしどしカセットテープに録音してしまうことです。頭の中で考えているメロディーは、どうしても簡単に忘れてしまうのです。私の場合は、幸運なことに、楽譜に書く事ができるので、いつもそばに五線紙が置いてあります。それでも時々、自分の思い付いたメロディーを忘れてしまい、後でヒジョーに残念な思いをすることがあります。「思い立ったが吉日」と言うではありませんか。

さて、作ったメロディーをどうやって人に伝えたら良いのでしょうか。何も知らないアマチュアはどうしたら良いのでしょうか。できたら、五線紙に、自分のメロディーを写し取ることにする方